

知っトク 二戸

知っていたらトクするかも？
な二戸の文化や伝統、風土を
紹介します

こやし
No.1 子安さま



①子安さまの着物を整える②赤ちゃんを抱いている子安さま③手を合わせ祈る④浄法寺歴史民俗資料館所蔵の「コナサセ道具」。昭和30年代まで使われていました

女性だけの伝統行事 子授かりや安産を願って

子授かりや安産にご利益があると言われていた「子安さま」。子安さまを祭る家では年に1度神棚から下ろし、地域の女性や子どもたちが集まるお祭り「子安講」が開かれていました。これは新暦・旧暦の1、2月に行う伝統行事で、少なくとも100年以上の歴史があります。

お神酒や米しとき、にしめ、赤飯といった精進料理やお菓子などを供え、参加者も同じものを食べながら談笑する行事です。

伝統を守りたい

現在、金田一地区では14軒の家に子安さまが存在しています。その内6軒で子安講が行われており、1月15日には中屋落美さんの家で開かれました。中屋さんが守り伝える子安さまは、新聞掲載などをきっかけに県内外から拝みに来る人もいるそう。「伝統を絶やさず、次世代へ伝えていきたい。赤ちゃんのことで悩んでいる人がいればいつでも拝みにきてほしい」と話しました。

持ち主の多くは「産婆」

持ち主の先祖を辿ると助産師をしていた家が多く、資格はないが子どもを何人も産んだ出産経験豊富な女性が「産婆」となり、助産の仕事をしていました。子安さまは、産婆の守り神として神棚に祭り、道具も一緒に納められていました。

浄法寺は「オボコビラキ」

浄法寺でも「オボコビラキ」と呼ばれる子安講の行事が行われています。また、神仏と深い関わりをもつ助産の技術や産婆のことを「コナサセ」と呼び、平成2年には御山の御堂から、実際に使われていた「コナサセ道具」が発見されました。二戸浄法寺両資料館所蔵の助産道具は、市の有形民俗文化財に指定に登録されています。



もっと知りたい！
2021年3月発行
「二戸市の子安さま」が市立図書館で借りられます。二戸歴史民俗資料館では2,000円で販売中です。